

竹原憲雄氏の報告をめぐる討議

今日、地方自治団体の財政が全世界的に多くの困難をかかえており、この報告が分析する大阪府の事例は、貴重な示唆を示すものといえよう。特に、大阪府の財政事情が、日本の大都市の中もっとも劣悪であるという事実は、大邱市が韓国の大都市の中もっとも脆弱であるという事実と照合しており、興味深い。

大阪府の状態は、一般先進国の例に比べてみると、それ程深刻であるとはおもわれないが、財政悪化が近年に至りより深刻化しており、今後の改善努力に財政改善の鍵がかかっているといえよう。なお、大阪府の財政が悪化したのは、最近数年間における日本の財政が一般的に沈滞している点、大阪府のいくつかの大型プロジェクトが負担となり、これらの要因が相乗作用をおこしている結果とおもわれる。

これらの点よりみて、自治団体のインフラ計

画においては長期的見地による視覚が何よりも緊要であるといえる。また、特定地域がその地域の長所を生かす地域政策が重要であるが、この点において、大阪府がそれ程成功的でなかった点も、欠かすことのできない注目すべき点であろう。

このような状況の下、自治団体の長に誰になるかは、たいへん重要な問題となるのであるが、大阪府においてはこのような団体の長の問題につきエネルギーを消耗しすぎているようである。

このような要旨報告と討議が行われたが、何れにせよ大阪府の事例は、ほかの大都市の財政政策の計画に、重要な参考資料となることであろう。

(金漢奎*)

(訳 金鏞淇**)

* 啓明大 政経学部教授

** 啓明大学校経営学部元教授、嶺南大学校名誉教授